

京都大学大学院 教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2014. 8.19^(tue)・20^(wed)
全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM 2014



Q. 「E.FORUM」とは？

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

研究科長よりご挨拶



E.FORUM によくそお越しくございました。この耳慣れないことばの意味をまず確認しておきますと、「フォーラム」は古代ローマ時代に遡る「広場」を意味する言葉であり、「E.」は「教育(education)」の略です。多くの人が集まって、教育の意味やそのあり方について知識や見解を交換し共有しあう場を作り出すことが京大 E.FORUM の目指してきたことです。この意味では、学校そのものも E.FORUM であるわけですが、教育の果たす役割について、主体的かつ自覚的に考えていこうとするスタンスを京大 E.FORUM は重視しています。この広場で、参加者各位が探しているものが見つかることを願っています。

子安 増生(京都大学大学院教育学研究科長)

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では2006年度にE.FORUMを設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。2012年度からは、教師をめざす学生たちにも積極的な参加を呼び掛け、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

I. スクールリーダー育成のための基礎講座

日 程： 2014年8月19日(火) (1日目)

対 象： 全国からの希望者100名程度(先着順)

II. 学校教育研究フェスタ

日 程： 2014年8月20日(水) (2日目)

対 象： 全国からの希望者100名程度(先着順)

※1日目または2日目のみの参加も受け付けています。

会 場：京都大学吉田キャンパス内
(詳細は裏面の地図をご覧ください)

参加ご希望の方は、申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、8月5日(火)までに、メールまたはFAXで事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

参加費

2日間：5,000円(京大生3,000円)

1日のみ：3,000円(京大生2,000円)

当日に受付でお支払いください。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000円)が必要です。

※ お弁当(一個1,000円)をご用意できます。



お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033

E-mail: e-forum@educ.kyoto-u.ac.jp

(申込用紙はホームページからダウンロード出来ます。)

URL: <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>

E.FORUM

検索

スクールリーダー育成のための基礎講座 <1日目>

2014年8月19日(火)

会場: 人間・環境学研究科棟 地下1階 大講義室(B23)

9:00- 9:30	受付	(担当者)
9:30- 9:50	オープニング	
10:00-12:00	ワークショップ「若い教師に伝えたい授業づくりのフレーム」	石井 英真
12:00-13:30	昼休み	
13:30-15:00	講義「個性を生かす教育を考える ——臨床心理学的観点から考える発想の転換」	松下 姫歌
15:15-17:15	ワークショップ「学校教育における場づくりを考える」	山名 淳 服部 憲児
17:30-19:30	懇親会 (会場: 京大時計台前カフェレストラン「カンフォーラ」 参加費: 3,000 円)	

※ お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日に代金をお支払い下さい。
キャンセルされる場合は8月5日(火)までにご連絡をお願い致します。

ワークショップ「若い教師に伝えたい授業づくりのフレーム」

都市部を中心に教師の世代交代が急速に進行しています。その中で、若手教師に授業づくりの基本的な技や考え方をどう伝承するかが課題となっています。本セッションでは、授業づくりの骨格となる思考のフレームを紹介するとともに、教材研究をどう進めるか、学習者のつまづきをどう読み解くかといった、授業づくりにおける基本的な考え方について、ワークショップ的な演習を通して学びます。また、「教科する(do a subject)」授業をキーワードに、授業づくりの今後の方向性についても説明します。

講義「個性を生かす教育を考える ——臨床心理学的観点から考える発想の転換」

現代社会においては「一人一人の個性」が強調される一方、もともと日本社会で重視されてきた「社会適応性」も従来以上に強調される傾向にあります。実際、個々の子ども達が主体的に生きていくためには、両方の観点が必要です。教師は「自分を生きる」面と「社会の中で生きる」面の両面を視野に入れて子どもに関わるわけですが、現実には、「個性」を「理解」する際、「社会適応性」の軸で評価し、「個性」を「社会適応的な性質」に変化させようとは対応し、結果的にはうまくいかなかったり、これでいいのかと悩んだりする場合も案外多いのではないのでしょうか。講義では、一見「自己成長的でない」「社会適応的でない」ように見える言動の中に、実は息づいている個性的な「自己成長力」と「社会適応力」を見出す観点や発想の転換について考えたいと思います。

ワークショップ「学校教育における場づくりを考える」

現代社会では、学校のみならず、組織における適切な運営の重要性が強調され、それともなっており危機管理の方策をとる構えが浸透しています。他方において、こと教育についていえば、「冒険」や「挑戦」といった要素が重要であり、ただたんに安全であればそれでよいというわけではない、という意見も耳にします。リスクを減じることとリスクをあえて受け入れることがせめぎ合いを起こすことは、しばしば具体的な教育に関する場面において見受けられるのではないのでしょうか。本ワークショップでは、この問題に関する解説を交えながら、教育場面における具体的な状況を設定しつつ、皆さんとともにこの問題を考えます。

昨年度の受講者の声 (写真は昨年度の研修の様子です)



実践の場で活躍されている
改め教員への熱意をもつ
ことが出来た。(学生)

同じところで悩み、共有でき
たことが何よりの成果でし
た。もう一度見直し、実践で
きそうです。(小学校教諭)



現場では、どこかで考えられ、
出来上がった理論をもとに実践
するだけ……という気持ちでし
たが、本研修を通して自分たちも
実践を発信することで新たな理
論形成に役立つことができたこ
とを実感しました。実際の現場に
近い内容の研修でしたので、2学
期にはいっただけに活用できる
実践例を得ることができました。
(中学校教諭)

学校教育研究フェスタ <2日目>

8月20日(水)

会場: 人間・環境学研究科棟 地下1階 大講義室(B23)

9:30-10:00	受付	(担当者)
10:00-10:20	オープニング	
10:30-12:00	講演「教師に求められるワザとは何か ——教育的タクトから考える」	鈴木 晶子
12:00-13:30	昼休み	
13:30-13:40	研究科長ご挨拶	子安 増生
13:40-14:30	講義「パフォーマンス評価の到達点と課題」	西岡 加名恵
14:45-16:45	シンポジウム「パフォーマンス評価の可能性を探る」	
16:45-17:00	クロージング	

※ お弁当をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出ください。
キャンセルされる場合は8月5日(火)までにご連絡をお願い致します。

講演「教師に求められるワザとは何か ——教育的タクトから考える」

教師に求められるワザとは何でしょうか。小手先の技術論に陥らず、己の道を修練していくための教育術の最高の宝石は「教育的タクト」であると、かつて19世紀ドイツの教育学者J.F.ヘルバルトは唱えました。タクトは触覚を軸とした総合的な感覚であり、判断や決断のワザです。経験を糧にしていくビジョンをもち、子どもの、そして自らの成熟、成長、熟達を見極める眼は、ワザとして練磨可能です。組織運営の企画力、調整力、共感力が求められる21世紀のスクールリーダーが具えるべきワザとその修練法についてお話したいと思います。

講義「パフォーマンス評価の到達点と課題」

知識やスキルを使いこなす力を評価するパフォーマンス評価は、思考力・判断力・表現力や汎用的スキルなどの育成に有効なものとして注目されています。本講義では、パフォーマンス評価をめぐる政策や研究の動向を紹介し、今後の課題について検討します。また、E.FORUMのネットワークで開発された「E.FORUMスタンダード(第1次案)」について紹介するとともに、「E.FORUM Online(EFO)」の活用方法についても提案します。

シンポジウム「パフォーマンス評価の可能性を探る」

論理的思考や問題解決、チームワークの力などを育てるために、パフォーマンス評価やポートフォリオをどのように実践すればよいのでしょうか。このシンポジウムでは、先進的な実践に取り組んでおられる3校にご報告いただき、パフォーマンス評価の可能性を探ります。

【報告】

- ◆「小学校低学年算数科における思考力・判断力・表現力の育成を目指す実践研究」
宇都宮大学教育学部附属小学校 佐藤綾子先生
- ◆『『未来を拓く思考力・判断力・表現力』の育成』
熊本大学教育学部附属中学校 田上貴昭先生
- ◆「学習者の自己学習力・実践力が伸びる教育方法・評価
——パフォーマンス評価とポートフォリオの活用」
あじさい看護福祉専門学校 糸賀暢子先生

【司会】石井英真・西岡加名恵

昨年度の受講者の声 (写真は昨年度の研修の様子です)



自分の教科について本質的な問い、理解について、様々な意見交流ができたのはとても、勉強になりました。これからの授業で活用していこうと思います。ありがとうございました。(中学校教諭)



小学校社会でのグループだったので、同じ課題で話し合うことができて、大変有意義な時間となりました。スタンダード作りも、絞った話し合いができたので面白かったです。よりよいスタンダードができることを祈念しております。完成したら、活用していきます。(小学校教諭)

単元指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

「カリキュラム設計：パフォーマンス評価の進め方」について知りたい方へ

昨年度まで提供していたワークショップ「カリキュラム設計：パフォーマンス評価の進め方」の内容については、京都大学オープン・コースウェア(OCW)でご覧いただけます。「教育課程論Ⅱ(担当：西岡加名恵)」の授業の中でパフォーマンス評価について説明している動画や関連資料を、以下のURLでご覧いただけます。ご活用ください。

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>



1. 教育評価の基本用語
 2. 目標と評価方法の対応
—パフォーマンス評価とは何か
 3. パフォーマンス課題の例
 4. パフォーマンス評価の普及
 5. パフォーマンス課題を作る
 6. ルーブリック作りから指導の改善へ
 7. 高等学校の実践例
 8. 学力評価計画の立て方
 9. 看護教育におけるパフォーマンス課題
 10. ポートフォリオ評価法
- 課題B パフォーマンス課題を作る
課題C 学力評価計画を作る
課題D ポートフォリオを設計する

用語解説

「パフォーマンス評価」とは？

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)の総称。自由記述の筆記テスト、観察や実技テスト、パフォーマンス課題、プロジェクトなどによる評価を含む。

「本質的な問い」とは？

カリキュラムや教科の中核にあり、探究を促したり、本質的な内容を看破することを促進したりするような問い。単元全体を貫いたり、単元を超えて繰り返し問われたりするような問いである。

「ルーブリック」とは？

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、各レベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表。自由記述問題やパフォーマンス課題など、〇×で採点できない評価方法での採点指針として用いられる。

「パフォーマンス課題」とは？

複数の知識やスキルを、状況の中で総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題(レポートやプレゼンテーションなど)。「真正の」パフォーマンス課題では、リアルな文脈(あるいはシミュレーションの文脈)における知識・スキルや理解の発揮が求められる。

「永続的理解」とは？

数年たって詳細を忘れた後でも身に付けておいてほしいような、重要な理解。「永続的理解」は、学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なものである。また、教室の中だけでなく、生活場面など様々な状況において価値を持つような理解である。

「ポートフォリオ」とは？

学習者が取り組んだ学習の過程や成果を示す様々な資料や、自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの。ポートフォリオ評価法においては、ポートフォリオの作成や編集、検討会を通して、学習者の自己評価や教師による学習評価・教育評価を促進することができる。



京都大学の教職課程ではポートフォリオを活用しています。
その取組については、下記をご覧ください。

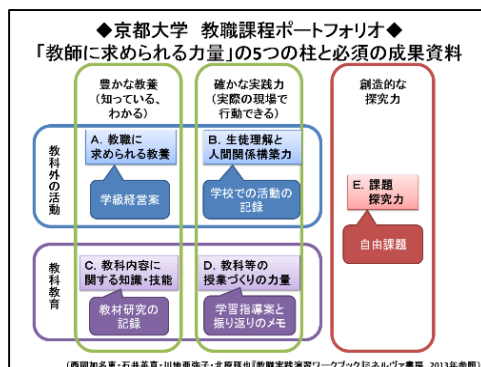


(概要)

http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/kyoto_uc/46/

(学生のプレゼン)

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9302001>



講師紹介

Suzuki Shouko
鈴木 晶子

京都大学大学院教育学研究科 教授



ワザの修練に注目しながら、教育哲学や人類学の手法を用いて新たな学習論を探究しています。ベルリン自由大学やケルン大学と共同で、日本とドイツの学校で調査研究をしています。
公式 HP・ブログ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/shoko/index.html>

主な著書：『智恵なすわざの再生へ——科学の原罪』（ミネルヴァ書房、2013 年）、『幸福の人類学——クリスマスのドイツ・正月の日本』（ナカニシヤ出版、2013 年）、『教育文化論特論』（放送大学教育振興会、2011 年）、『これは教育学ではない——教育詩学探究』（冬弓社、2006 年）、『イマヌエル・カントの葬列——教育的眼差しの彼方へ』（春秋社、2006 年）など。

Yamana Jun
山名 淳

京都大学大学院教育学研究科 准教授



教育哲学、教育思想史の研究に取り組んでいます。教育を通常とは別の角度で眺めてみることによって、現状の問題点と新たな展望を示すことを目指しています。

主な著書：『夢幻のドイツ田園都市——教育共同体ヘレラウの挑戦』（単著、ミネルヴァ書房、2006 年）、『キーワード 現代の教育学』（共著、東京大学出版会、2009 年）、『ドイツ——「過去の克服」と人間形成』（共著、昭和堂、2011 年）、『「もじゃペー」にくしつけを学ぶ』（単著、東京学芸大学出版会、2012 年）、『人間形成と承認』（共編著、北大路書房、近刊）など。

Hattori Kenji
服部 憲児

京都大学大学院教育学研究科 准教授



教育政策・教育経営の立場から、教育改善を促進する方策について研究しています。本研修が学校運営の改善の一助となることを目指します。

主な著書：『フランス CNE による大学評価の研究』（単著、大阪大学出版会、2012 年）、『大学を変える、学生が変わる』（共著、ナカニシヤ出版、2012 年）、『学生と楽しむ大学教育』（共著、ナカニシヤ出版、2013 年）など。

Matsushita Himeka
松下 姫歌

京都大学大学院教育学研究科 准教授



臨床心理学・心理療法の専門です。「人は、瞬間瞬間において、心の次元での“自分”を他者との間でどのように成立させているのか、その体験のリアリティはどんなものか」について研究し、心の持つ力を生かす心理療法を探究しています。

主な著書：『心理療法における「私」との出会い——心理療法・表現療法の本質を問い直す』（共著、創元社、2014 年）、『臨床心理学（心理学研究の新世紀 4）』（共著、ミネルヴァ書房、2012 年）、『「発達障害」と心理臨床』（共著、創元社、2009 年）ほか。

Nishioka Kanae
西岡 加名恵

京都大学大学院教育学研究科 准教授



専門は教育方法学（カリキュラム論・教育評価論）です。近年はパフォーマンス評価を中心に研究しているほか、学校におけるカリキュラム改善の進め方にも関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。

主な著書：『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』（単著、図書文化、2003 年）、『「活用する力」を育てる授業と評価 中学校』（共編著、学事出版、2009 年）など。翻訳『理解をもたらしカリキュラム設計』（日本標準、2012 年）も刊行。

Ishii Terumasa
石井 英真

京都大学大学院教育学研究科 准教授



学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。

主な著書：『現代アメリカにおける学力形成論の展開』（単著、東信堂、2011 年）、『パフォーマンス評価——思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』（共著、ぎょうせい、2011 年）、『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』（共著、ミネルヴァ書房、2013 年）など。

運営担当：

黒田 真由美
田坂 繭子

教育実践コラボレーション・センター 研究員
京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
 - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・みづ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。